

あつまって ちる

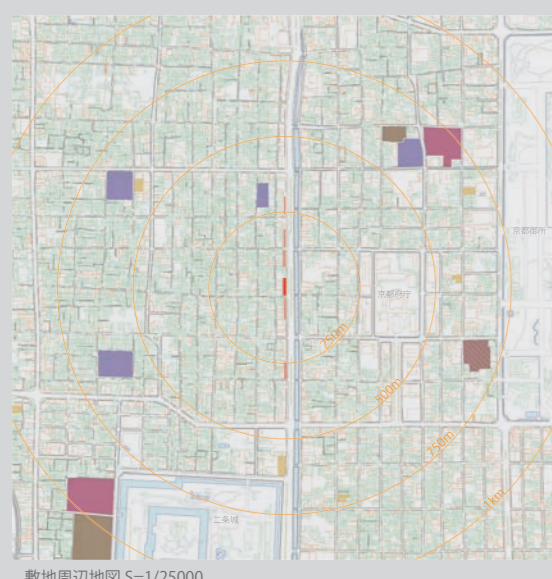
子どものためのストリート + 癒しと活力の学生向け住居

京都の街中にある堀川団地は、二条城や京都御所が徒歩圏内にあり観光客が訪れる地ではあるが、敷地周辺を詳しく見てみると、小学校や中学校といった、この地に住む子どもたちが活動する場が、堀川団地により近く、多数存在していることが分かる。そこで一階店舗部分を、広場、駄菓子屋、ピアノスタジオを筆頭として、近隣の子どもたちのための『集まり』『遊び』『学び』の空間として計画を行った。

従来の店舗形態から大きく変更し、長屋のように壁を共有させるのではなく、島状に独立させることで内部に路地状の通路を作り出し、大人と比べて活発に動く子どもが遊びながら空間を巡る商店街とした。中央部には、核となる広場を設けて子どもたちの活動の拠点となるように設計した。店舗はコンクリートの壁で仕切るのはなくガラスを用いて仕切ること、廊下と店舗を広く見せるとともに、採光や曲がり角の安全性、そして従来なかった店舗同士の視線の繋がりをもたらした。

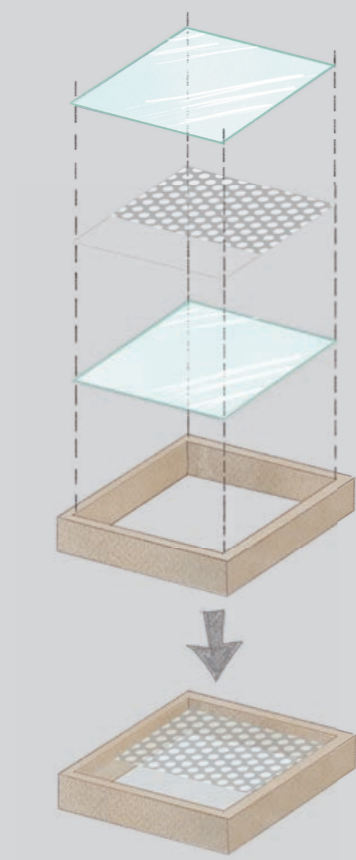
アーケードは木製格子内部に部分的にパンチングメタルをはめることで、太陽光を疑似的な木漏れ日に変化させる。パンチングメタルの向きをランダムに配置することで、影に変化をもたらし、その影を踏んで歩くなどの遊びができるに設計を行った。

二・三階住居部は、京都の学生が住まう集合住宅を計画した。他大学の学生とも交流を生み出す空間として、共有LDKと西側テラスの設計を行った。テラスに空を見上げ、地を直接感じる空間をつくる。多数ある吹抜けで一階商店街にいる子どもたちの声や姿を感じる。自然と子どもたちから癒しと活力をもらい、明日への大学生活の気力と繋げる。



敷地周辺状況
出水団地1棟を中心とした半径1kmの範囲において、小・中学校が堀川団地周辺に存在する。

- 堀川団地 (出水団地1棟)
- 幼稚園・保育園
- 小学校
- 中学校
- 高校

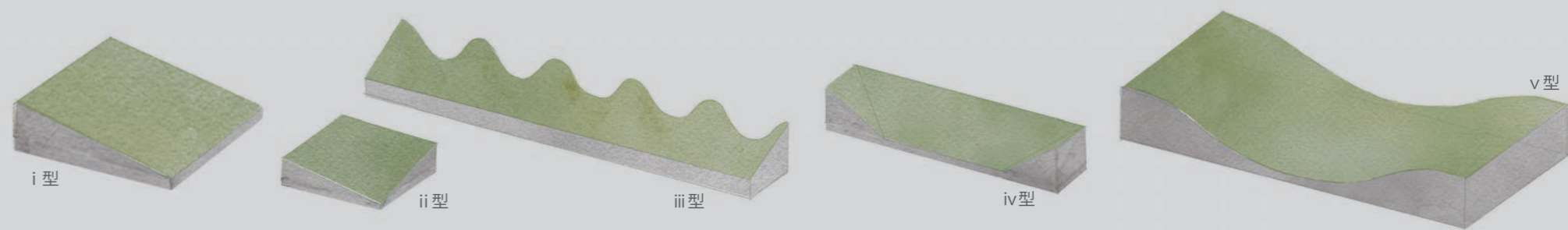


2F テラス部分の計画

西側のテラス空間は1階と同様に島状の緑の空間を計画し、ここに住まう学生がゆったりとした時間を過ごせる場所として計画を行った。点状の緑の島は、単純に水平に芝を敷くだけでなく、様々な立体的な形状をつくることで「座る」「寝る」という行為を生み出す。そこに座り、寝そべり、地を肌で感じ、空を見上げ、日々の疲れを癒す。多数ある吹抜けは、下階の堀川団地商店街を訪れた子どもたちの元気な声や姿を学生に伝え、その声や様子から、課題に追われる大学生の明日への活力をもらう。このテラスで過ごすことで住民の間で交流が生まれ、ここに住まう仲間と共に何気ない日々を過ごす場となるように計画した。

立体芝の形と最高の高さ

- | | | | |
|-------|--------|---------|--------|
| 1: i型 | 350 mm | 7: iii型 | 650 mm |
| 2: 平型 | 400 mm | 8: 平型 | 200 mm |
| 3: 平型 | 250 mm | 9: 平型 | 750 mm |
| 4: 平型 | 600 mm | 10: 平型 | 400 mm |
| 5: 平型 | 350 mm | 11: ii型 | 450 mm |



アーケードの計画

約1mの間隔で基盤となる格子を木で組み、そこに格子内面積約6割長方形のパンチングメタルをガラスで挟んだものをはめ込んでつくる。パンチングメタルは格子ごとに向きをランダムに配置して、元の単調なアーケードから、見て楽しめるものとした。

二階平面図 S=1/200



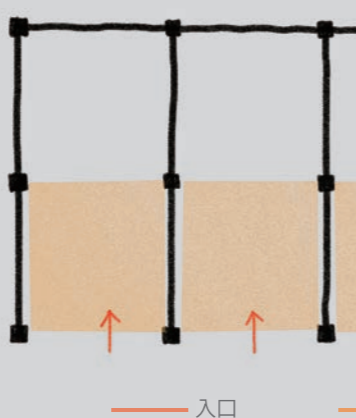
2F・3F 住居の計画

堀川団地竣工当時の面影を残したリノベーションも設計を行った。元々のプランの名残として既存の木造間仕切り壁を残しつつ、かつ新たな間仕切り壁もそれに倣い木造で建築し、シャワーユニットを設けるなど現在の生活スタイルに適合させたプランとした。西側を土間スペースにし、東側に寝室となる部屋を設けることで、パブリックな空間である表のテラスから段階を踏んでプライベートな空間に移行するよう計画した。新たに造り付けの棚を設け、かたちの継承を行う。

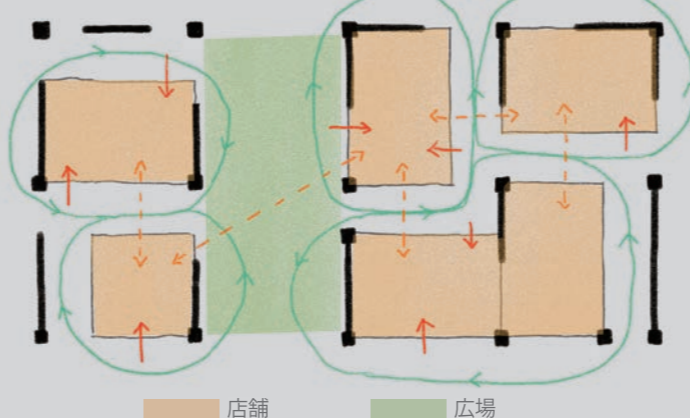
共有LDKの計画

誰もが使いやすいよう中央階段の降りたところに設けた。各住居と比較して既存間仕切り壁の保存率は低いが、団地内唯一和室が残されており、自分の部屋では味わえない空間を演出した。この団地に学生が集まってながらも、各々の暮らしを送ることの意義を考えるきっかけとする。

元の堀川団地



リノベ後の堀川団地



1階の計画ダイアグラム

元の団地の店舗は、壁で明確に分離されており、表の歩道からのアクセスだけで店舗同士のつながりが希薄であった。耐力壁の半分以上を残しながらも小さな店舗を島のように配置させ多方向からのアクセスと店舗同士の視線の繋がりを持たせた。店舗の間を張り巡る路地は、回遊性をもたらし、自由な活動できるようにした。中央広場は、堀川団地周辺を行きかう人々の休憩場所として、堀川団地で遊ぶ子どもたちが体を動かす空間としての役割も持つ。

- 天井: 既存躯体 EP (白)
- 壁: 既存躯体 EP (白)
- 間仕切り壁 化粧ラミネート合板 UC
- 床: 化粧フローリング EP (白)
- 土間: モルタル金網押仕上げ

住居 A

西側4.5畳の和室を土間に変更。キッチンを中心とした空間をつくる。土間スペースと寝室項目には壁や戸を設けないフルームタイプとすることで広さを演出する。洗面・脱衣室をコンパクトにまとめた。



二階住戸平面詳細図 S=1/100



仕上げ
天井: 既存躯体 EP (白)
壁: 既存躯体 EP (白)
新躯体 EP (白)
床: フローリング
土間: モルタル金網押仕上げ

プログラミング教室
プログラミング教室は職を削いでゆったりと学ぶ。二階制だから、床での作業も大丈夫。設置に必要な器具は階下の廊下に収納。

ジュース専門店
気軽にフラッと立ち寄れる角地場所だからこそテイクアウトのお店。

食堂
座敷、カウンターを備えた食堂。昼間はいたって普通の食堂だけど、夜は「こども食堂」に変わる。

駄菓子屋
表の入口は4枚の引き戸を全開にすると表に開いた店となる。商品を見て、選り行く人々を誘いこむ。

中央広場
左右対称な堀川団地の印象を崩さぬよう中央部を減築してつった広場。清々しい広さを感じる。

スタジオ受付
ピアノスタジオとダンススタジオの両方を管理する事務室兼受付。スタジオを借りる際は、ここで鍵を受けとる。

文房具店
小さな町の文房具店。普段学校で使うものも友達と遊ぶのにも使える。

住居駐輪場
北側から入って自転車を止める。友達が来た台数などのために居住人数以上の台数に対応できる。

芝の庭
京の町中で緑を感じられる場所。裏側にあるので表の広場から隔離した空間をつくる。

デッキ広場
集まったところにあるデッキ広場は木製デッキの縁に繋がって、ゆったりとくつろげる場所。

一階平面図兼配置図 S=1/150

